

『時空を超えて』

白露に 風の吹きしく 秋の野は つらぬきとめぬ 玉ぞ散りける

ふんやのあきやす
文屋朝康

【現代訳】

きらきらと輝く草の露に、風が吹き寄せる秋の野原は、本来、糸が通っているはずのネックレスの糸が切れて、真珠や宝石がこぼれ散ったようで美しい。

文屋朝康は六歌仙の一人である文屋^{やすひで}康秀の息子で、官位は高くありませんでしたが、和歌の優劣を競う歌合に参加して、和歌の才能に恵まれた人でした。ある朝、犬の散歩をしていたら、ふと、道端の光輝く草の露を見て、「自然の織りなす輝き」に感銘を受け、私はこの歌を思い出しました。千年の時を超えて、文屋朝康と私は同じ気持ちになりました。

山陽小野田かるた協会 久保 久美子